

個人山行 守門岳・八海山・荒沢岳

2017年6月25～28日（日～水） 岡本（単独）

梅雨の合間を狙い、越後へ向かう。午後3時、大和高田を出発。北陸道から関越に入り、小出ICで下りる。そこから国道252号線に沿い、道の駅入広瀬まで行き仮眠。

26日、5時半道の駅発、6時過ぎ、保久礼小屋登山口駐車場に着く。登山口から暫く階段が続く。赤土がむき出した滑りやすそうな嫌な道だ。歩き出すと直ぐに霧雨になり、ゴアテックスのズボンをドロドロしながらひたすら歩く。キビタキの水場案内を過ぎると、キビタキ小屋経由と直接大岳への道に分岐し、少し遠回りになるが、小屋ルートを取る。

保久礼小屋もキビタキ小屋も廃屋寸前という感じで、緊急時には役に立つかも知れないが、中を覗く気もしない。水分補給だけして進む。何の変哲も無い、霧雨の中、赤土の歩き辛い道をただ歩く。少し傾斜が緩くなると「不動平」なる標識があり、更に進むと少し広い場所に着き、そこが大岳山頂だ。

大岳から尾根伝いに進むと、道脇に結構残雪がある。滑りやすく、少しブッシュ気味のところもあるが、所々にニッコウキスゲやヒメサユリも咲いていて、少し気分を和ませてくれる。二口コースとの分岐を過ぎると所々に木道が出てくる。暫く行くと青雲岳の標識が有り、池塘のある平らな場所に着く。池塘には申し訳程度の水芭蕉があるだけで、ガスで他は何も見えない。そこから直ぐに守門岳山頂に着く。



(大岳尾根のヒメサユリ)



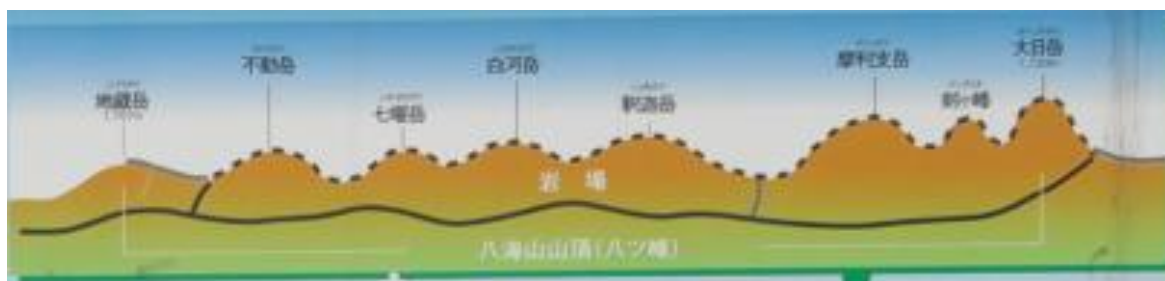
(青雲岳の水芭蕉)



(守門岳山頂)

今日は生憎の霧雨のため、景色は何も見えない。行動食を取り、さっさと下山する。注意するものの、雨で濡れた赤土の道は何ともならない。何度か尻餅をつきながら、霧雨の中を来た道に戻る。駐車場から八海山麓の旅館まで行く。

27日、八海山ロープウェイの始発が8時20分なので、ゆっくり行く。乗り場に行くと、南西斜面で大丈夫と思っていた八峰の迂回路が積雪の為通行不能と書いてある。ロープウェイの上に着き次第出発。尾根コースだと最高峰までの往復コースタイムが8時間強、ロープウェイの最終まで8時間弱、天気予報は午後に俄雨とある。どこまで行くかは歩いてみてから決めるとの方針で出発。

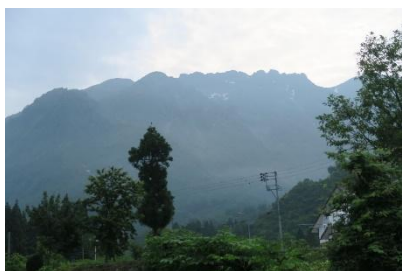


ロープウェイの駅から女人堂手前までは、展望の利かない樹林帯の道を行く。展望が開けると正面に女人堂が見え、少し急な坂を登ると、そこが女人堂だ。

女人堂の正面に薬師岳が聳え、山らしい雰囲気が出てくる。女人堂を過ぎ、残雪の横の少し急な坂を暫く登り続け、鎖場を過ぎると360度の眺望が楽しめる薬師岳に着く。正面には千本槍小屋と八ッ峰の地藏岳、向かいには越後駒ヶ岳から中ノ岳へ続く山塊が良く見える。

そこから千本槍小屋までは10分程、小屋を少し行ったところから八ッ峰の尾根ルートに入る。尾根は鎖場の連続で、慎重に進む。所々岩や鎖が濡れると滑りそうなところも何ヶ所がある。後半の摩利支岳は少し険しく、一番奥の大日岳は殆ど垂直のハシゴと鎖場があり、ここは結構怖い感じがする。

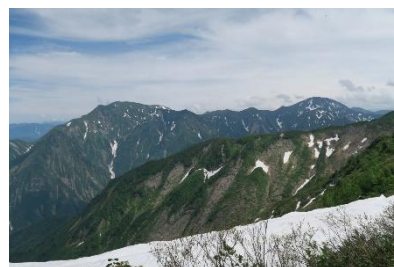
大日岳からこの山塊の最高峰である入道岳まで行く予定であったが、午後から雨の天気予報もあり、下山後の移動時間も考え、ここから引き返すことにした。午後2時過ぎにロープウェイ駅に着き、4時過ぎに奥只見湖湖畔の銀山平にある伝之助小屋に着く。後は温泉にゆっくり浸かり、ビールを堪能する。



(八海山麓から八ッ峰)



(女人堂から薬師岳)



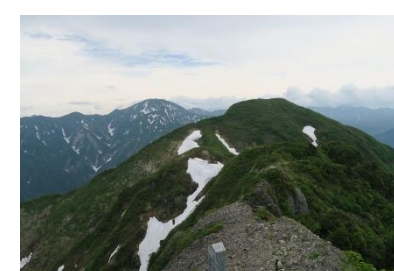
(千本槍小屋から駒ヶ岳・中ノ岳)



(摩利支岳から大日岳)



(八ッ峰最高峰大日岳)



(大日岳から入道岳)

28日、今日は最終日だが、一番の長丁場だ。標高差は1200m程だが、途中に長い鎖場などあり、ペース配分に注意しながら歩き始める。登山口には標識もあり、間違えることはない。少し行くと水場があり、そこから前山までは樹林帯の中の急な坂道が続く。前山からは奥只見湖が見える程度で、大した展望はない。そこから前岳下までは、所々登りはあるが、樹林帯の中のだらだらとした道が続く。前岳が正面に見えるところから鎖場が続き、途中から直接尾根に取りかからず、少し下って前岳ピークを迂回する形で鞍部にたどり着く。鞍部に着く手前の長い鎖場と急な登りは中々の難所だ。

鞍部から荒沢岳とそのルートがはっきり見える。天気がイマイチなのは残念だが、曇っている分体は楽だ。ただ、尾根筋ではあるが、虫が多く油断していると直ぐに噛まれる。前岳上部から山頂までは標高差400m余りで、景色がよく見えるのは慰めになるが、意外にきつい。東からくる尾根に突き当たると、そこから少し岩場があり、それを越えると山頂だ。

山頂は360度遮るものがない素晴らしい展望で、越後駒ヶ岳から中ノ岳の稜線、平ヶ岳方面、奥只見湖なども一望できる。今日は曇り空で山々がすっきり見えないのが残念だ。山頂にも虫が多く、チクツとした瞬間そこから血が滲んでいる。ブヨに違いないと、ビクビクしながら行動食を取る。雲が少し上がってくる気配もあるので、折角の山頂を早々に去る。

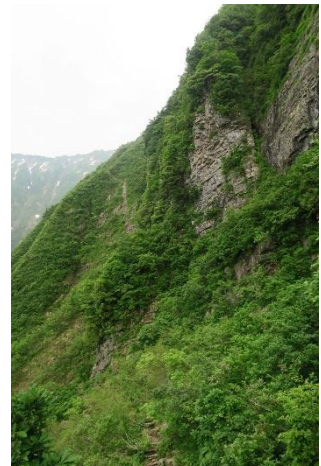
前岳の上部に着く頃には荒沢岳は雲の中で、景色が見えた分ラッキーと思いながら前岳の鎖場を降りる。鎖も足場も濡れており、細心の注意を払いながら下っていく。ここを過ぎれば後は惰性で行くだけで、最後の水場で顔を洗い下山。まだ午後1時前で、時間も十分あるので银山平の白銀の湯に浸かり、後は家まで7時間余り、ひたすら車を走らす。



(中ピーク前岳と荒沢岳)



(前岳中間点)



(前岳トラバース道)



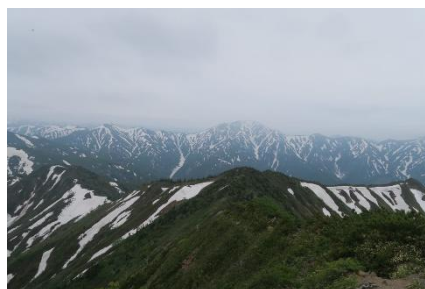
(前岳上部から荒沢岳)



(東尾根出合いから奥只見湖)



(荒沢山頂、奥、駒ヶ岳、中ノ岳)



(山頂から越後駒ヶ岳)



(山頂手前の岩場)